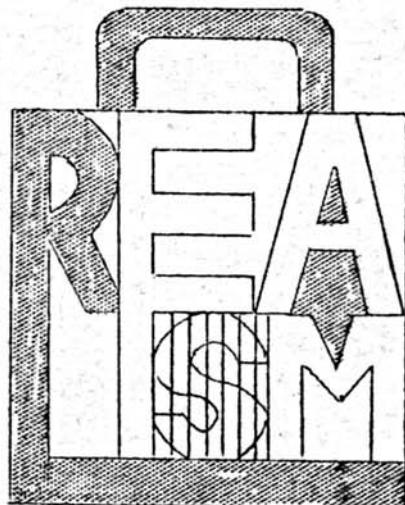


# 劇評集

3号



東日本リアリズム

演劇公講

中部ブロック 発行

目 次

第三帝国の恐怖と貧困 (剣団 名古屋) はぐるま こばやしひろし

女の平和 (つむぎ座) 剣団名古屋 安藤英美子

負けうさぎ (剣団 名芸) 剣団演劇集 後藤武弥

私は海峡を 越えてしまつた (岡崎演劇集団) 剣団名芸 栗木英章

にんじん (剣団すがわ) 剑団名古屋

シックスと豆の木 (剣団はぐるま) 剑団名芸 宇田順一

セキュアンの善人 (剣団 審索) 岡崎演劇集団 石川みづぐ

恐怖にならなかつた第三帝国（剣団・名古屋）

チンピラにしか見えないと、不景味さが生れない。

4月6～8日  
名演小劇場  
劇団はぐるま  
一二ばやし・ひろひ

芝居を見せてどうつたのが四月、印象的だった。しかし、最初の「国民共同体」で「二二」が不守になつた。印象的だった。しかし、最初の「国民共同体」で「二二」が不守になつた。印象的だった。しかし、最初の「国民共同体」で「二二」が不守になつた。

印象もうすれて、メチャキリギリ四  
ヶ月後の八月にかかると、うつの  
で、ぐじりにぐじりの印象批評をか  
くしきくだべー。

幕があくや戦車のシルエットが  
迫り、一九二三年と字幕が入る。  
爆発する。

十四次の進軍、軍靴がひびき、ド  
イツ國歌が、一音帝はオミ帝國へと  
導かれてゐる。  
や一話で二話の「白黒の十字  
でと、突撃隊、親征隊がカルカチュ  
アされて、オミ帝國の恐怖が生れな

幕開きは非常にスマートにしていて、  
くたばる。テンポラにやかいないか。

第四話の「法の発見」空翠が  
ユダヤ人宝石商ミ襲フに事件を審  
理する区裁判所判事（山内康治）

「お惜か面白い法の結果とは、イシ民族の利益を守ることである」という。何か國益優先のためにメ

「ウニクンか、ど二かの總理大臣のようなことばにが、司法の独立といふことがいわれていゝ時、

今日性の強いドラマである。しかし、本 자체、ユダヤ人と共同経営

者と空襲隊と事件が二みいつていてわざりにくい。頃出として单纯化してみたうどうだろう。そして区裁判所の判事の苦惱、勤務が、

警察官、検事、地方裁判所判事と、  
諸が進むにつれて奥行きが出てく  
ると思つた。そのメリハ  
リが弱い。

や五話「箱」

天の死體すり見てはいけない。

その恐怖、大へん長い間があつて  
いい。そのに込みの上に氣の狂  
つによる怒り、そして再び長い  
間が欲しかった。

や八話「スパイ」

私には一番面白がつた。干供す  
ら信頼でさほい夫婦のいらだち。

不安は出でいでと思う。とくに教  
師はんて氣の弱いインテリである  
夫（清水甚也）妻（じとうてろ）  
と奸淫である。ただ、最後の「わ

い「本当のこと、って何と思うか」  
と尋に聞くのが、落ちのよくな気が  
して面白くない。子供がチョコレー  
トと聞いていつにことを確り、安心

しに妻にかければ、それすり疑う夫  
に対する妻の恐怖が生れる筈である。

や九話「スパイ救援」

竹達（石黒文代子）の人のよ  
さ・庶民性、素朴さがない。つくつ  
てあらひで面白くない。言葉尻をつ  
かむ突撃隊の非情で出て来なくな  
るのはそのためである。

や十話「恵業幹部」

权力は國民に人殺しの仕事を与え  
ていく。現実に妄想しなければなら  
ない夫（冬木平）は罪悪感をマヒ  
させていく。しかし、弟を失つた妻

（安藤英美子）は簡単に手放でさ  
ない。その男と女の対比が弱い。  
生活の豊みがないからだ。

そしてや十一話でオーストリヤ

は併合される。たつに一言「一  
とびラにかく。これがすべてのし  
めくくりにならなければならぬ。  
それがなのはなぜか・演習処理  
でとり上まるだけではどうにも引  
き受けられない。十一話のすべてが積み上  
がらず併列的になつてしまつたか  
らではなかろうか。とくに二つし  
ばり居は、その積上げが成功する  
か否かでさまるような気がする。

や十三話「裏切り」・や十六話「勤労  
奉仕」にしてと、何かつばざと  
いう感じがぬぐえなかつた。さら

ト、いい演技がのんと思つと、芝居のリズムを狂わす演技者がいるといふことは残念である。しかし、この経験はドラマの勉強には大いに収穫となつたと思つ。

## 「女の平和」を見て（つむぎ座）

5月13～18日 名古屋小劇場

別団名古屋 守藤英美子

まず劇場へはいつたとんどび二んだのは、いかにも劇場感が苦労して作つたといつて感じの舞台装置である。門が大きいせいか、前よりに立ててあるせいか、どこ舞台が狭く、あの名張小劇場の使い方の難しさを改めて感じた次第である。さて、アテネの城山

と、どうとまに合わせと、感じがして、よくなかつたようだと思つ。かけや四、六、かわなどと少しへねいに遊びが必要があるのではないか。

ところで、この戯曲のひとしきりとは、やはり古代アリシヤの自由人としての明るさとエネルギーを持つアテネの女達、その女達がセツクスを武器に、強いては女であることを最大の武器にして、男達へば門ばうすぐ敵へせきられてしまふのではないかと素朴な疑問を持つ。ウのではなくいかと素朴な疑問を持つ。豊かさであろう。それを現代の我々が感じようとすると、今までなかなか思ひがあるのだろうが、戦争を止めさせようとした女達のエネルギーの素晴らしさは表現されねば

ならないと思うのだが……。しかし舞台では明るいエネルギーが感じられない、そのためどうぞ笑えないものである。それはどうと役づくり、特に女優さん達が、恥ずかしがっているというのか、あのカリシマの才達の明るい性を表現するにはちゃんと解放されていい感じがするのである。色気といふのが、やわらかく、というのか、そんなふくらみが欲しかった。

それからカリシマ劇の本質的な特徴と云えるコロスの扱い方が、条件がそろわなかつたのだから、合唱隊長のみで処理されていたようだが、やはりボリュームに及け、ロック調（音楽に詳しい）ではないでしょうか。「お金を取り

りませんのでもうがつて、いたり失礼の一リズムが舞台にマッチナしていなかつてあります。しかし人の役者は熱演され、お感の持てる役づくりでありつた。

さて、私はつむぎ座の「虫」をあります。今、舞台上に立って、その虫の力が舞台から感じられました。とても楽しそうにやつてうつしゃるのです。

スクリーナークル的な感じといふか大學の演劇部の公演を見ていうのが、匂氣がしてなりません。例えば、役者を二分して上方の「お」をしろべではなく、そのエネルギーを創造の力として、よりていねいで、着実な舞台づくりをされますよう、期辭します。

ひとつひろがれ！ みなみ子供劇場！

「駆けうさぎ」を観て（劇団名芸）

4月25日 南図書館ホール

劇団演集 後藤武殊

この本には二つの対立関係があります。前半にゐるピョン吉と仲間のウサギ達との対立。そして後半の狼とウサギ達との対立です。

です。

芝居のやマ場として狼とピョン吉の格斗があるので、残念なことに前半に書かれていたピョン吉と仲間のウサギの対立……畢竟駆けくらべをして負けたピョン吉が笑い者になれ、のけ者にされるのが狼とピョン吉の格斗のものですが、残念なことに前半に書かれていたピョン吉と仲間のウサギの対立……畢竟駆けくらべをして負けたピョン吉が笑い者になれ、のけ者にされる

まい。鹿と駆けくらべをして負けたピョン吉を批判しているのか、それ共ピョン吉を笑い者にした仲間のウサギを批判しているのか、あるいは双方を批判しているのか、あるいは双方を批判し成長させようとしているのか、勿体ない気がします。演技者では上廻する側の姿勢が伝わって来るのです。観ている方では、恐ろしい狼に一人で斗争に行くピョン吉の姿や、その斗争を見ている仲間の

ウサギ達、双方に淋しさを感じますのです。ひとつピョン吉と仲間のウサギの対立を出して欲しいし、仲間の対立をして欲しいとして、一通りするしばは別としても、一語になつて狼と斗つて欲しい。そして中でこそピョン吉や仲間のウサギ達に二度くずれない強い友情が生まれてくるような気がするのです。その他では、狼とピョン吉の格斗場面はとつとかじろくして欲しいですね。兎争は狼のかぶりとのあの格斗に出でだけでは勿体ない気がします。演技者では気の弱いウサギの青吉と平次さんが好演。久美ちゃんのシロ子はかきのくせに猫背で元気がなくてはピョン吉に好かれられないのれー

す。人形劇、腹話術、指人形、そ

して「焼けうござ」と続いたり

沢山のや五回みほみ子供劇場、二

の期待を更に大きくするため、今  
の期待を更に大きくするため、今  
後とも頑張ってください。

「私は海峡を越えてしまつた」（岡崎演劇団）

—二人の会話による観劇評 —

5月13日　岡崎勤労会館

劇団名芸　栗木英章

A　岡崎がこの脚本をとりあげる

と知った時、おい弁むおかしい

ことだと思つた。

B　朝鮮人の問題といふことで?

A　いや、そのことを通じて結局

日本の我々の生き方を回いかけて  
いるのだろうけれど、パンチ

ヨンパリ（半朝鮮人）とかかわ

つてのせまり方が屋井していく。  
地域の人たちにどうつながつて

台本の問題と大きい。

B　家族主義にはまり込んでいた

京子が、南というかそらく初め

ての男を通じてかわっていくと

いう筋はわかってきて、ではその

愛の次元の高まり方とか、燃え

るものというのが、どうぞ行儀

がよすぎて伝わってこない。

A　前半、無理にかざえていたよ

うだが、やはりわからぬ部分が

多かった。京子がパンチヨンパリ

とわかつてからの生まれかわりが

主題だらうといふことは感じだけ

思ひが噴出したようで、それの

盛りあがりはあつたが、不自然

さが残る。

B　不自然といえば、幕引きが実

東大震災を受けた直後の騒動か

ら始まるわけだが、舞台上の区

す。人形劇、腹話術、指人形、そ

して「焼けうござ」と続いたり

沢山のや五回みほみ子供劇場、二

の期待を更に大きくするため、今  
後とも頑張ってください。

「私は海峡を越えてしまつた」（岡崎演劇団）

——二人の会話による観劇評——

5月13日　岡崎勤労会館

劇団名芸　栗木英章

A　岡崎がこの脚本をとりあげる

と知った時、おい弁むおかしい

ことだと思つた。

B　朝鮮人の問題といふことで？

A　いや、そのことを通じて結局

日本の我々の生き方を回いかけて

いるのだろうけれど、パンチ

ヨンパリ（半朝鮮人）とかかわ

つてのせまり方が屋井していく。

地域の人たちにどうつながって

A　その前提となる家庭環境が、あ

の当時としてはかなりリベラルで  
あり、リアルでないことを原因だ。

台本の問題と大きい。

B　家族主義にはまり込んでいた

京子が、南というかそらく初め

ての男を通じてかわっていくと

いう筋はわかってきて、ではその

愛の次元の高まり方とか、燃え

るものというのが、どうぞ行儀

がよすぎて伝わってこない。

A　前半、無理にかざえていたよ

うだが、やはりわからぬ部分が

多かった。京子がパンチヨンパリ

とわかつてからの生まれかわりが

主題だろうということは、感じたけ

ど思ひが噴出したようで、それの

盛り方がはあつたが、不自然

さが残る。

B　不自然といえば、幕引きが関

東大震災を受けた直後の騒動か

ら始まるわけだが、舞台上の区

わが住むほとりを開拓する・演技とこそ

「にんじん」を観て  
(剣田すがぢ)

5月19・20日 桑名労働会館

剣田名古屋

近鉄線急行で二十分余り、ぼくで、流れてくるドーランの臭いを鼻にしつつ初めて初めての「剣田すがぢ」に行きは、「近いなあ」の発見に始まつた。

会場の桑名市民会館は、五百余りの折りたたみ椅子を並べた、せらり冷房などないホールであり、

それと無理のない「こいつては叱られるかどしれないが、決して肩いかれただとのぞく」活動の積み重ねが思われた。

会場からくる制約のためで空へ行く階段のガタヒシに、その条件の悪さが想像された。しかし控室にはこれまでの剣田のホスター、チラシ、舞台裏裏などが並べられ、十度隣室が桑屋になつて、

これと会場からくる制約のためでわこうわがりっぽなしのドンナヨウホリゾントが一度消え、オーデニン

のむこう、ついたままにしてあつた

門剣田俳優のなりほど児童な舞台は、しかし終つて、一時間たらずで千円と取りやがつて、と憎まれ口をたがせたのだ。つまり

剣田民芸が上演して同じ作品を名鉄ホールでぼくは観て、いる。専門剣田俳優のなりほど児童な舞台は、しかし終つて、一時間たらずで千円と取りやがつて、と憎まれ口をたがせたのだ。つまり

の映画で金を払つたう二本立て  
三本立てを、いとわす最後までみは  
いと撮としたようが気になつてし  
まう食え人のばかりで腹を立てた  
の事実だが、あとになつてみると、  
この舞台には何か時間とは別  
のものが足りなかつた。あの舞台  
、ぼくらの隣、あるいはぼくの現  
実でとめてて、その現実は東につ  
らくなつていやにならようなことで  
決して「うまくできてる」といつ  
たるのではなく、苦なのと、そ  
こで終つていいたのだ。

「すかお」の舞台も、ぼくはそ  
の「すかお」においてすぐれていたと  
みた。例えば終幕近くヒステリッ  
フに家をじび出しだしたピック夫人  
が戻つてくる。今は父と自分と同じ  
く二の母と愛して「な」ことを知つ  
たにんじんが、母の後妻に孤独の影  
をみて、思わず「ママ」と呼ぶ。ふ  
りかえる母。しかし、その後はに入  
じてと言葉が続かず、母の方から口  
にする言葉とみつからず、それはあ  
まりに日本人すぎるかも知れないが  
どうしようとも、キレイとでといつ  
たのが、ここにはあつた。レーピック  
氏のがやくに、種類にとそれをみた。  
だが、その上でである。観つつ、  
「二二一、二年、中・高校生の自  
殺が多い。そのいずれとが、理由  
がわからぬといわれる。蒸発する  
夫や、子を捨てる母がいる。しか  
し彼等は一兎して、そのようなく  
ではあるまい。ぼくらの生活のま  
わりに、その内実にかいて「ぐれ  
じへ」一家を、兎のなれば、そ  
のろがところの姿から描いていく  
ことはできないか。例えば劇団に

心の内にある姿であつてと、外は  
どうとさりば行く生きる術を知つ  
て、「カ培で、だからこそより告げ  
いのであるんぢやないが、あく  
までと暗く重い父親や、冷たい母  
親が、わからずまに出すきては、  
はいか。

東京のぼくらが、ぼくらの家庭に

「にんじん」を持つているのだか

うは劇団「すがわ」が二十分の物理的距離よりも近く、伊甸の劇団

「児してはそ、ど見えない」と

のを描きつづえぐりださねばなら

ぬのがある。

その時、レピック氏の声があり

は單語にならず、「にんじん」と無

理に声をつくる必要となくなりう。

舞台で足のふうつくのを幾度とみ

たが、ぼくら生活の場でふうついてなどいられない。『わが住むほとり』の生活の中でもこそ演劇の源がありはしないか。

女中アンネットと、父に母をと理解して、いく「にんじん」に劇団の願いの極されているのはみえた。帰りの電車でぼくと仲間た

ちは劇団「すがわ」が二十分の物理であることを思つた。

## ジャックと豆の木（はぐろま）

7月21・22日 岐阜市民会館

劇団名芸 宇田順一

超満員にふくれあがつた岐阜市民会館は、ジャックの一舉一動にわいだ。

作品と演出が子供に楽しい芝居に

徹していたため、子供達は十分舞台

に引き付けられていた。特に牛は名

優だ・表情・動きなどにかわいらし

く、子供は牛が出てくるだけで大喜

び、その牛が踊り出すのだから、す

た楽しい。また、大男の宝物・金の

トロリが次々に金の卵を手品よろ

さと楽しみ方からすれば、演技者

しく生み出とす。豆の木のサイン

調のライトの中でニヨキニヨキと

大きくなるほど……仕掛けで乗

しませてくれる。テレビのウルト

ラマンなど怪獣とので育つてきて

いる子どもたちには、ひつたりの

趣向である。音楽が殆んど全編に

流れ、曲の調子とタイミングの

良さは芝居の流れを良く説明して

いた。しかし、裏方の芝居の楽し

さと楽しみ方からすれば、演技者

は裏方に呑まれて影が薄かつたのではなかろうか？

児童劇を意識しての演技だとは善意に解釈するにしてと、説明的でオーバーな仕草は一考を要する。演技上の島藤が舞台化されていなかつたりに平板さが目立つ。セ

リフの長い場面では、テンポが急に落らんばかりすることが目立つた。表面上の仕草で磐石を笑いの

中に誘うことは、児童劇であろうといけない、ことだと思ふ。全体に早いテンポと切れのいい動きでドラマを引っぱっていったスマッシュにそれが目立つた。大男の演技は大きな動きになり勝ちでありながら、それをかこんだ整理された動作

の中に観客の中から笑いが生まれスマッシュのそれと対照的であつた。

芝居をやつている者のいやうしてか知れないが、子供達が随分喜んでいたのがわかった。自分といつたんだから良いのではと思いつつ観客への迎え方が妙にひつかか

った。しかし、中のある年令層のスマッシュのそれと対照的であつた。子供達を二時間余と暗闇から舞台へ集中させたのは、やはり素晴らしきのがわかった。自分と舞台をみながら随分楽しんだこと思い出して、そう思ひ直した。

## セチユアンの善人（劇団演集）

7月6・7日

名古屋中小企業センターホール

岡崎演劇集団

石川みづぐ

演集創立二十五周年記念公演に小さく、「史の中で生まれた絶力をわたくし、この中で生まれた絶力を發揮する姿勢が、スレヒトにぶつけようとする姿勢が、舞台上の隅々からどうかがわれ、充実した舞台となっていた。先輩劇団である演集に、ただ感服という次第だが、それが目立つた。大男の演技はエン・テの中にあらベタ風采の明るさ、豪爽さが適確に描き切れていた。シューイ・タへの変容

まほシェン・テの変容にが、これと並んで、この劇の主軸となつて、テーマが二つの劇の主軸となつて、テーマが二つの劇の主軸となつて、テーマが二つの劇の主軸となつて、テーマが二つの劇の主軸となつて、テーマが二つの劇の主軸となつて、テーマが二つの劇の主軸となつて、テーマが二つの劇の主軸となつて、テーマが二つの劇の主軸となつて、テーマが二つの劇の主軸となつて、

の場合の演技を意識し過ぎてなの

と思つた。

かわいらしいを感じた。だからシ  
ュイ・タになり度つた時の冷酷さ  
が伝わらない。との、いいをあまり  
に意識し過ぎたのだけないか、

といった気がしないでよい。

シェイタになり度つた時、仮面、  
音程、動きなど苦労してはいる  
ようだが、その直線的な動きの中  
に、甘さが見られるのはどういづ  
詫なのだろう。パンツの中で「簡  
素な身ぶり」、「明晰で冷静な語り

方」とあつたが、やや徹底されて  
いたのでは、と思われた。芝居ス  
クリの発想としては悪くはないの  
だが、役づくりの中での凝縮の仕  
方に問題があつたのではないかと

次に水充りだが、この性格がはつ  
さりしない。この場合、めくまで狂  
言まわし的な性格を強めの方がいい  
のでないだろか。彼の譲容への

語りかけは重要だし、ストレヒトのい

く描写から註釈への出しゆけの変化  
といふ桌からと、この役の性格を的  
いまままにしてはならないと思  
う。また、神様をよくわからぬ、  
いわゆる神という概念の否定の上に  
立つて、新しい人間の中の神の創造

人間の善惡の代弁としての神といふ  
ことはわからにして、その三人の  
演技からは伝わつてこない。各々の  
役づくりの発想があれだけ遅つてい  
ると、神という象徴性がうまくなつ  
か「又か」と、いつた唐突感を感じ

て、滑稽味ばかりが先に立ち、二  
のドラマの中で占める神の位置が  
漠としたものになつてしまつ。ど  
うしていわいに描いて欲しかつ  
た。

とにかく演集には歌える役者が  
いる。これだけ歌えるのなら、何  
とマイクの必要はあるまい。機械  
を通した音が折角それまで盛りあ  
ってきただ舞台を断ち切つてしまつ。  
とにかく音が役者以外の所から出  
てはいけない。

二度のスライド映写にさひつか  
かりを感じた。一幕では素直に入  
ってきたのだが、それと全く同じ  
ものが二幕目にと使われると、何

て、感情のつまよゑを感じてしまふのだ。意味はわからが入つてこない、どう少し整理する必要があるのではないか。今日的などのとのつながりを急ぎ過ぎたがために、につまつた形で出でない、そんなことを感じた。

とにかく、これだけの大作を、これだけ厚みのある舞台に仕上げた力量は並み大ていではない。やはりそこに戸田の「史の重さ」を感じるし、それに甘えていない演集の姿勢を感じる。

先輩戸田として、これから手応えのある舞台を、と願つている。

編集後記

大へんおそくなりましたが、刻評集オラ号が届けいたします。せみに発行と急いで関係とあり、全集田の投稿頂けなかつたこと残念ではあります。二二二五基点に、更に深い批評活動を学び合ひの中で確かなどのにしていければと思います。

一九七三年八月十七日発行

担当

岡崎種別集団

東リ演・中部スロック